Fukuoka City Public Library Movie Hall

シネラ

シネラ・ニュース
January.2001 No.54

特集
カメラマン 宮川一夫

特集
ヴィエト・リン監督と ベトナム映画

1

蝶や蛾は、模様を武器に相手を引寄せ、自らを守るために威嚇もする。その美しさゆえに時には相手の判断を鈍らせることもある。
『雨月物語』 イラスト＆文:山下良平

特集 ベトナムを代表する女性監督ヴィエト・リン監督と主に90年代のベトナム映画の秀作を特集。

ヴィエト・リン監督とベトナム映画

映画の都ハノイとホーチミン

ベトナムには映画の中心地が二つある。首都ハノイと経済的な中心であるホーチミンである。ハノイの映画スタジオを代表する監督が、「河の女」「十月になれば」などの作品で日本でも良く知られているダン・ニャット・ミンだ。そしてホーチミンの映画スタジオを代表する監督の一人がヴィエト・リンである。ハノイのスタジオとホーチミンのスタジオの映画の作風の違いは、現在の社会主義国の首都としての都市と、かつて資本主義だった都市の違いによく似ている。静かで落ちついた思索的たたずまいを見せるハノイに比べ、ホーチミンは人々の喧噪が似合う街だ。ホーチミンで作られる映画はハノイにくらべ、娯楽性を重視する傾向がある。今回上映する作品ではヴィエト・リン監督の3作品の他に「黒いサボテン」「遙かな旅」「歳月」がホーチミンの作品である。ダン・ニャット・ミン監督の作品と比較すれば、その違いがおのずと理解できるだろう。

ヴィエト・リン監督は52年の生まれであり、映画はロシアで学んでいる。86年「静けさの中の鳥の歌声」が劇映画の監督デビューである。つまり86年から始まったドイモイ（経済解放政策）の中での劇映画デビューなのだ。そして今回、福岡初公開となる「旅まわりの一座」で国際的にも注目されるようになる。「悪魔のしるし」以後パリに移り住んだこともあり、「アパートメント」が7年ぶりの最新作となっている。ロシアで学んだためか、ホーチミンスタジオの作品の中では抑制のきいた彼女の作品は、同時に女性らしい優しさと愛らしさを持っている。ベトナムだけでなく、東南アジアを代表する監督としてこれからも期待されているのである。

17水 14:00 / 20土 15:00 / 25木 19:00 旅まわりの一座 Traveling Circus

監督／ヴィエト・リン　日本語字幕付き
出演／テー・アイン
1988年／35ミリ／カラー／80分／ベトナム

ある旅まわりの一座が、金塊を目当てに山岳地帯の村に入る。しかし訪れた村は飢饉でサーカスどころではなかった。魔法で村人を救いたいと考える村の少年と、一座の少女の交流を通して、子供達の純真な心、大人達の醜さを描く。92年スイス、フリブール国際映画祭グランプリを受賞したヴィエト・リン監督の代表作。

17水 19:00 / 21日 11:00 悪魔のしるし Devil's Mark

監督／ヴィエト・リン　日本語・英語字幕付き
出演／ゴック・ヒェップ
1992年／35ミリ／カラー／85分／ベトナム

胸にアザがあるために、魔女と怖れられる少女の物語。村から追い出された少女は山で暮らし、脱走した若い囚人と偶然出会う。二人は愛し合い、子供ができる。しかし村に食べ物を探しに行った青年は捕まってしまう。純粋な愛と真実の姿を見ようとしない村人を寓話的なスタイルで描いた作品。

18木 14:00 / 21日 15:00 / 26金 19:00 アパートメント Collective Flat

監督／ヴィエト・リン　日本語・英語字幕付き
出演／マイ・タイン
1999年／35ミリ／カラー／90分／ベトナム

1975年のサイゴン陥落により、ホテルが解放軍のアパートとして利用されることになる。ホテルの門番だったタムは今度はアパートの管理人として雇われる。様々な解放軍の兵士達、医学生のミンなどアパートの住人達がタムを中心に描かれる。監督の女性らしい優しい視点に満ちた作品。

会　期：17日（水）～26日（金） ※休館日・休映日を除く
観覧料：500円（大人）
400円（大学生・高校生）
300円（中学生・小学生）
※定員制、各回入替制。※チケットはすべて当日券。前売り券はありません。※福岡市在住の障害者の方は無料、福岡市在住の65才以上の方は半額。（手帳の呈示が必要です。）

18木 19:00 / 24水 14:00 遙かな旅 The Long Journey

監督／レ・ホアン
出演／ファム・コン・ニン

1996年 35ミリ カラー 99分 ベトナム
日本語・英語字幕付き

80年代のベトナム、軍人のタンは戦友タイの遺骨をリュックにつめて、南から北へ向かう列車にのる。しかしタンはリュックを列車においたまま、列車に乗り遅れてしまう。タンはバイクタクシーにのり、列車を追いかける。戦争の傷跡を内包しながら経済的に発展するベトナム社会を鋭く切り取った作品。

19金 14:00 / 24水 19:00 歳　月 Hai Nguyet

監督／ミー・ハー
出演／クアン・ハイ

1998年 35ミリ カラー 90分 ベトナム
日本語・英語字幕付き

ニュエは老舗の魚醤（ヌクマム）会社を営む裕福なグエン一家の娘だった。75年の南北ベトナムの統一により、社会主義の波が迫っていることを知った一家は国外逃亡を企てる。祖母とともに残ったニュエだが、財産は没収されてしまう。ニュエは仲間達の手を借りてまた魚醤作りを一から始めるのだった。

19金 19:00 / 25木 14:00 退役将軍 The Retired General

監督／グエン・カック・ロイ
出演／マィン・リン

1988年 35ミリ モノクロ 92分 ベトナム
日本語・英語字幕付き

退役した将軍が故郷の家に帰ってくる。医者である息子の嫁は金を貯め込み、愛人を家に引き入れていた。年老いた妻は気がふれて自殺してしまう。良かれと思って解雇した召使いも悲惨な状況にあえぐ。しかし将軍は乱れた家庭をどうすることもできないのだった。若い世代に追いつめられる古い世代を描き、社会的な論争を巻き起こした作品。

20土 11:00 / 26金 14:00 黒いサボテン The Black Cactuses

監督／レー・ザン
出演／ヴィエト・チン

1991年 35ミリ カラー 90分 ベトナム
日本語・英語字幕付き

中部ベトナムに住む少数民族・チャム族の娘と、米軍の黒人兵士とチャム族の女性との間に産まれた青年の愛の物語。チャム族の美しい民族衣装も目をひくが、ベトナム戦争の影響を色濃く反映しながらも、逞しく生き抜くベトナムの人々の姿が二人の愛の中に描かれる。90年代初期のベトナム映画を代表する傑作。

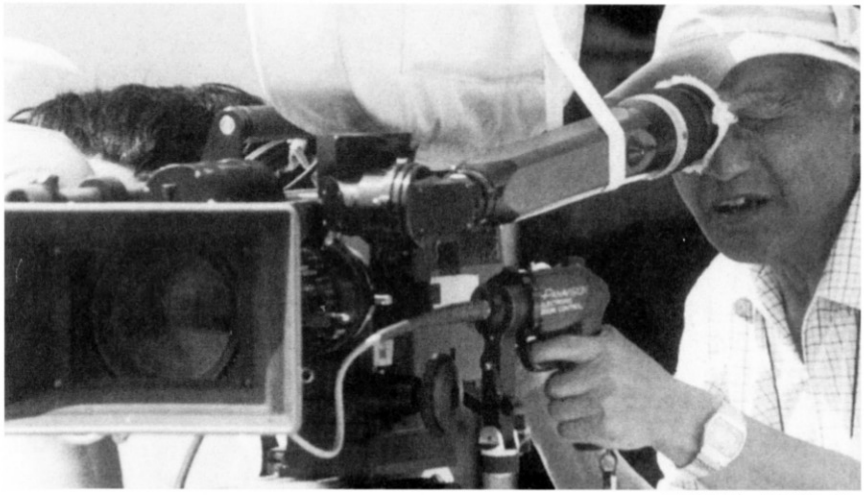
特集 カメラマン みやがわかずお 宮川一夫

日本映画の黄金時代を支えた名カメラマン宮川一夫の代表作を特集。

会　期：5日(金)～14日(日) ※休館日・休映日を除く

観覧料：500円(大人)　400円(大学生・高校生)　300円(中学生・小学生)

●定員制、各回入替制。　●チケットはすべて当日券です。前売り券はありません。
●福岡市在住の障害者の方は無料、福岡市在住の65才以上の方は半額。(手帳の呈示が必要です。)



写真提供／宮川二郎

カメラマン・宮川一夫

1999年8月7日、映画カメラマンの宮川一夫が亡くなった。

宮川一夫は1908年、京都に生まれ、1926年に京都日活撮影所に入社する。

日活で現像技師、撮影技師を経て1935年「お千代傘」より独り立ちする。宮川一夫が下積みを経験した1920年代から30年代は日本の無声映画の完成期であり、ディレクター制などスタジオシステムによる分業制の確立した時代であり、サイレント映画の表現が成熟し、同時にトーキーという新しい技術が導入された時代でもある。彼がまだ下積みだった時代には撮影技師は映画監督よりも威張っていて、彼はそれを苦々しく思っていたという。そうした中で現像や撮影に関する知識を吸収したということは、極めて重要なことだといえるだろう。彼自身は「監督とカメラマンは夫婦の関係」というのが持論であり、監督のイメージを具体化するために最大限努力をした。

稲垣浩、マキノ正博、黒澤明、溝口健二、小津安二郎、市川崑、吉村公三郎、篠田正浩などまったくタイプの異なる監督達の作品につきながら、彼らのスタイル、感性、それぞれの作品の意図を的確に読みとり撮影している。そこには豊富な経験とともに、監督の持つイメージを最大限に活かすための様々な創意工夫があった。フィルムの選択、撮影技術の工夫だけではなく、現像にも様々なアイデアを出している。

日本映画の歴史の中で名カメラマンと呼ばれる人は数多いが、その実績、技術などで宮川一夫は傑出した存在であった。戦前、戦後の日本映画の黄金期を支えた名カメラマンであり、その作品は今も人々の心を打つ。

5日(金)14:00　13日(土)11:00

鴛鴦歌合戦
おしどり

監督／マキノ正博
出演／片岡千恵蔵
市川春代

1939年／35ミリ／モノクロ／69分／日活

日本が日中戦争から太平洋戦争に至る時期に作られた時代劇ミュージカル。モテモテの貧乏浪人・浅井礼三郎と骨董狂いの父親を持つお春の恋物語。戦時下という世相を微塵も反映せず、ひたすらお気楽で陽気な作品となっている。主演の片岡千恵蔵や志村喬の唄も聞ける貴重な一本。

7日(日)15:00　11日(木)19:00

無法松の一生

監督／稲垣浩
出演／阪東妻三郎
月形龍之介

1943年／35ミリ／モノクロ／79分／大映

岩下俊作の「富島松五郎伝」を伊丹万作が脚色、稲垣浩が演出した最初の「無法松の一生」。喧嘩っ早い車夫の松五郎はふとしたことから若い陸軍大尉と知り合い、彼の死後、残された未亡人とその遺児のために世話を焼く。時間経過を示す人力車の車輪の映像処理など美しくも切ない名シーンが数多い傑作。

7日(日)11:00　12日(金)14:00

羅生門

監督／黒澤　明
出演／三船敏郎
京マチ子

1950年／35ミリ／モノクロ／87分／大映

原作は芥川龍之介の短編「藪の中」。ヴェネチア映画祭グランプリを獲得し、戦後日本映画黄金期の幕開けをつげた名作。平安末期、ある侍夫婦が一人の盗賊に襲われ、侍は殺害される。盗賊は捕らえられて裁判となるが、関係者の証言がすべて食い違う。物語、構成、演出、映像表現などすべてに実験的要素が盛り込まれた作品。

6日(土)11:00　14日(日)15:00

雨月物語

監督／溝口健二
出演／京マチ子
田中絹代

1953年／35ミリ／モノクロ／97分／大映

上田秋成の「雨月物語」より「浅茅が宿」と「蛇性の婬」をもとに川口松太郎が脚色した作品。戦国時代、陶器を売りに京に上った二組の夫婦が歩む数奇な運命を描く。戦後・溝口映画の代表作の一つであり、多くの名シーンがあるが、特に若狭と源十郎のシークエンスでのカメラワークが妖しく美しい。

8日(月・祝)11:00　14日(日)11:00

近松物語

監督／溝口健二
出演／長谷川一夫
香川京子

1954年／35ミリ／モノクロ／102分／大映

近松門左衛門の「大経師昔暦」が原作。暦の刊行権を握る大経師の妻が、ふとした行き違いから手代との仲を疑われ、追いつめられていく。一度は心中を決意する二人だが、やがて真実の愛に目覚める。ワンシーン・ワンカットや独特な構図など溝口健二独自の形式美、映像美によって世間の非情さ、女性の強さが迫ってくる作品。

5日(金)19:00　13日(土)15:00

夜の河

監督／吉村公三郎
出演／山本富士子
上原　謙

1956年／35ミリ／カラー／104分／大映

女性映画の第一人者・吉村公三郎が手がけた最初のカラー映画。吉村は色覚に障害があったが、宮川一夫とともに見事な色彩を作り出すことに成功した。京染屋の娘・キワは病弱な妻を持つ大学助教授の竹村と恋に落ちる。妻の死後、キワは竹村に求婚されるが…。この一作によって山本富士子は一躍スターとなった。

8日(月・祝)15:00　12日(金)19:00

おとうと

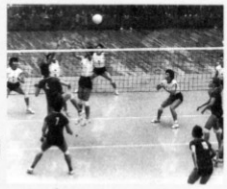
監督／市川　崑
出演／岸　恵子
川口　浩

1960年／35ミリ／カラー／98分／大映

幸田露伴の娘、幸田文の自伝的小説の映画化。この文芸作品に市川崑は大胆な構図と独特の色彩による表現を企て、撮影の宮川一夫は現像にまで凝り、特殊な処理を考案するなどして見事にこたえた。壊れかけた家族をなんとかつなげ止めようとする姉と、愛に飢え、不良化していく弟との交流を描く。

6日(土)15:00　11日(木)14:00

東京オリンピック



総監督／市川崑
ナレーション／三国一朗

1965年／35ミリ／カラー／169分／東京オリンピック映画協会

1964年に開催された東京オリンピックの記録映画。総監督の市川崑以下、詩人の谷川俊太郎、音楽家の黛敏郎、撮影に宮川一夫、林田重男など日本の映画人、芸術家を総動員し、様々な新機材と、斬新な映像表現を駆使して、オリンピックをオープニングからエンディングまで人間の祭典として捉え、記録を超えた芸術映画を作り上げた。

CINE COLUMN シネコラム

「21世紀の映画」

21世紀最初のシネコラム執筆を任命され、しばらく何を書こうか迷っているのだが、この名誉を生かすため、思いきって映画の未来について考察をしてみようなどと、大胆で身の程知らずな考えに囚われてしまった。映画の発明は1895年パリのリュミエール兄弟に始まることが定説であり、12月号のシネコラムに書かれているように、総合図書館ではその映画を収蔵している。100年以上の時間を経過して、歴史的な価値のみならず、美的にも価値を有するリュミエールの作品たち。こういったプリントを見ながらも、最近では映画を巡ってもデジタルだ、DVDだと様々な言葉が飛び交うようになってきた。映画好きな若い学生から「映画はなくなるんでしょうか。」と真顔で質問されることもある。これはもちろん「フィルムというメディアがなくなるのか」という意味にとらえるべきだが、イメージフォーラム・フェスティバルやぴあフィルムフェスティバルといった、若い作家の発表の場でもデジタルビデオが主流になっている。利便性という点ではフィルムはビデオにかなわない。将来、フィルムが他のメディアに取って代わられる時代が来ないとは言えない時代となった。

しかし劇場としての映画館がなくなる可能性はかなり低いだろう。では未来の映画館はどんなメディアで上映しているのだろう。ビデオテープでは決してないだろう。話題のDVDのようなディスク形態か。いやいやこれもおそらく違う。映画の流通と上映は試行錯誤の未、まだ将来に姿を現すものだ。つまり当分の間、フィルムというメディアが淘汰される心配はないと私は考える。サイレントがトーキーになり、モノクロがカラーとなった。それに匹敵する変化がデジタル化により起こる、ということが言われるが、果たしてスピルバーグの映画以外の作品に、そんな目に見える変化を我々は享受しているだろうか。メディアの変化と映画の内容の変化はもっと密接に絡み合うはずだ。我々は面白い技術を求めて映画館に行くのではない。アメリカ映画が最近つまらなく感じるのは、ここにも原因がありはしないか。

私はこういった議論の中に映画の中身が置き去りにされているような気がしてならない。技術革新ばかりが注目され、作品に対する評価がおいていかれている。また衛星放送などでチャンネルが増えてもソフトがないため、最近ではインディペンデントの作品までもが配給会社に吸収され、商業主義にのっていく。一面良いことだが、そこには作品に対する評価が忘れられている気がしてならない。まるで映画がコマーシャルと同じ存在になってしまったかのようなのだ。こちらの方が私は深刻な映画の危機だと感じる。

なんだかとりとめのない文章になってしまったが、結局、私は映画の未来を信じている。2000年に105才になった映画の、2100年の姿はもはや誰にも想像できない。しかし少なくともリュミエールの作品が、総合図書館が保有するアジア映画と同様に、シネラでフィルムで鑑賞できることを願っている。20世紀が生んだ膨大なフィルムによる財産は、フィルムにより継承される以外、最良の方法はまだないのだ。

学芸員　八尋義幸

INFORMATION お知らせ

各団体の自主上映

● 1月27日(土)11:00／14:00
「夜の蝶」(監督:吉村公三郎)
観覧料／前売:1,000円
当日:1,500円
主催／W・L・C福岡
(Tel.092-741-7687　瓜生史郎)

● 1月28日(日)11:00／13:30
「エイミー」(監督:ナディア・タス)
観覧料／前売:1,500円
当日:1,800円
中高生・シニア:1,000円
主催／福岡映画サークル協議会
(Tel.092-781-2817)

※自主上映の詳細については、直接主催者にお問い合わせ下さい。

ビデオ編集技術研修室のご案内

ビデオ研修室では、家庭で撮影されたビデオ(Hi8)や各行事の記録ビデオの編集などに利用できます。(使用料1時間500円、連続使用3時間迄、デジタルビデオの編集は不可)
※詳しくは福岡市総合図書館映像資料課まで

「あなたが選ぶシネラ映画ベスト5」～シネラポスターとイラスト展～のご案内

2000年1月～12月のシネラポスターとこれまでのシネラニュースから厳選したイラストを展示。来場者の投票により、2000年のシネラ映画ベスト5を選んでいただきます。

投票者から抽選で毎日5名様にシネラペア招待券をプレゼント。多数のご来場をお待ちいたします。

会期:1月8日(月・祝)～30日(火)
会場:イムズ7階<情報プラザ>
(中央区天神1-7-11)

シネラNEWS送付のご案内

定期購読ご希望の方に毎月シネラNEWSをお届けしております。購読を希望される方は、平成13年2月号～平成13年3月号までの郵便切手(90円×2月)を同封の上、下記宛先へお申し込みください。
宛先:〒814-0001福岡市早良区百道浜3-7-1
福岡市総合図書館　映像資料課

次号予告

※変更の場合もあります。あらかじめご了承ください。

2月1日(木)～12日(月・祝)

戦乱の20世紀

第二次世界大戦、ベトナム戦争等、20世紀のアジアの戦争、戦乱を背景とした作品群を特集。
「血と祈り」「戦火の中へ」「カルへからラインへ」「帰らざる海兵」「ハノイ、1946冬」「祈り」「空白のページ」「ハノイの少女」「レッド・ロータス」「大いなる路」

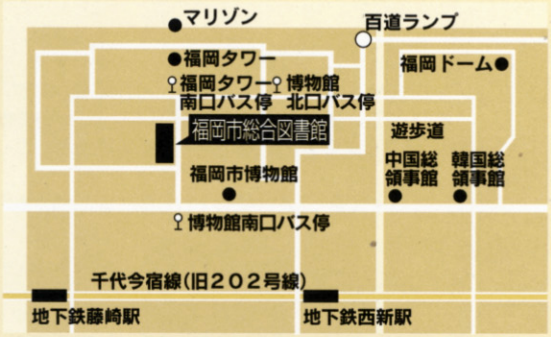
2月15日(木)～23日(金)

文芸映画特集(仮題)

著名な作家の小説などを映画化した作品の特集。
「地獄門」「点と線」「五番町夕霧楼」「新選組始末記」「伊豆の踊子」「青春の門」「瀬戸内少年野球団」

1月 上映スケジュール

1	月・祝		年末・年始の休館日	
▼				
4	木			
5	金	カメラマン宮川一夫	14:00 鴛鴦歌合戦	19:00 夜の河
6	土		11:00 雨月物語	15:00 東京オリンピック
7	日		11:00 羅生門	15:00 無法松の一生
8	月・祝		11:00 近松物語	15:00 おとうと
9	火		休館日	
10	水		休映日	
11	木		14:00 東京オリンピック	19:00 無法松の一生
12	金		14:00 羅生門	19:00 おとうと
13	土		11:00 鴛鴦歌合戦	15:00 夜の河
14	日		11:00 近松物語	15:00 雨月物語
15	月		休館日	
16	火		休映日	
17	水	ヴィエト・リン監督とベトナム映画	14:00 旅まわりの一座	19:00 悪魔のしるし
18	木		14:00 アパートメント	19:00 遙かな旅
19	金		14:00 歳　月	19:00 退役将軍
20	土		11:00 黒いサボテン	15:00 旅まわりの一座
21	日		11:00 悪魔のしるし	15:00 アパートメント
22	月		休館日	
23	火		休映日	
24	水		14:00 遙かな旅	19:00 歳　月
25	木		14:00 退役将軍	19:00 旅まわりの一座
26	金		14:00 黒いサボテン	19:00 アパートメント
27	土		自主上映「夜の蝶」	
28	日		自主上映「エイミー」	
29	月		休館日	
30	火		休映日	
31	水		月末休館日	



交通アクセス:当館の駐車場スペースに限りがありますので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。
地下鉄:西新駅または藤崎駅から徒歩15分
西鉄バス:天神～都市高速経由～福岡タワー南口
(所要時間　昼間で約20分)
博多駅～都市高速経由～福岡タワー南口
(所要時間　昼間で約25分)
福岡タワー南口バス停から徒歩3分
いずれも、昼間は10～15分間隔で運行されていますので大変便利です。お近くのバス停からのご利用につきましては、西日本鉄道テレホンセンター(電話　733-3333)に直接お問い合わせください。

編集雑記

映画は色々な楽しみ方ができる。例えば、ストーリーを楽しむ、監督に注目して見る、女(男)優の表情や演技を堪能する等々の鑑賞方法があり、特に名作映画と言われるものは見方により色々新しい発見があり、映画の奥深さを感じるところである。シネラでも様々な切り口での特集上映を企画しており、2000年の年始めには原節子という女優に注目した特集をお届けした。さて、21世紀の幕開けにシネラがお届けするのは、名カメラマンによる作品群という切り口での日本映画の名作特集である。カメラマン宮川一夫により実現された映像美に注目して、新たな目でご鑑賞いただきたい。　(M・Y)

Fukuoka City Public Library Movie Hall Ciné-là
福岡市総合図書館映像ホール・シネラ
〒814-0001　福岡市早良区百道浜3丁目7番1号
福岡市総合図書館(代表)092(852)0600　映像資料課092(852)0608　Fax.092(852)0609
福岡市総合図書館ホームページアドレス http://toshokan.city.fukuoka.jp/

デザインワークス／VOW OFFICE co.,ltd.　印刷／(株)ドミックスコーポレーション　R80 古紙配合率80%再生紙を使用しています。